



2020年
11月21日
発行

日本山岳会

「高尾の森」



—小下沢風景林の森づくり活動—

会員数：174名
(2020.10末現在)

台風や新型コロナでなかなか思うように作業もはかどりませんが、
これからは「ほ小班の林床に陽を！」注いでいきましょう。



毬栗（イガグリ）は数少ない
日本原産の一つ。
縄文時代には
人工の栗林が作られていたようで
その後材は鉄道の枕木に
使われていました。
横川信由



毬栗

<http://JACtakao.net>

3月初旬に噴火した新燃岳はレベル3、
火口周辺の2km四方が入山禁止となっている。

わざわいと 自然学

山から始まる自然保護18号より
(発行日 2019.5.27)

特定非営利活動法人山の自然学クラブ理事長
大蔵喜福

今年の(2018)漢字は『災』、第24回のこのイベントで2度選ばれた文字である。わが国は神代から自然災害多い国として世界でも有数。火山に始まり地震、津波、豪雨、台風、地球温暖化でこの夏、気温40℃超えが次々と……近年の桁違いな猛暑は温暖化の長期化を予想させるが、いずれにせよ局地的豪雨や台風の襲来を誘発する海水温上昇、高温度を維持する高気圧がその要因である。恵みの雨ならずの暴雨は、山、沢の大規模土砂崩れ、河川堤防の決壊などの水害、ダム放水の人為的水害、傾斜地の崩壊……西日本一帯に多くの災害を起こした。さらに台風21号は長期広範囲に及ぶ甚大な被害を起こし、激甚災害に指定されるも、国や自治体の対策は後手に回っている。大阪や北海道の地震、新しく爆裂した活火山の数々、こんなにも災いがあったのだと再認識、というより私たちの住まう国は大変なところなんだと落胆に近い今更の感慨……。

その災いに勝つために、大自然の猛威に挑戦、コッコツと国造りに励み、歴史を刻んできた先人には悪いが、どこまで来ても、完全に勝つことはできないでいる。正確に言うと人の病苦と同じように目先の対処療法、困難や病魔にたとえうち勝ったとしても、次なる大

辛苦が襲ってくる。大自然に戦いを挑むのも人としての使命、病人を救う医者と自然に挑む学者や技術者は、ヒトの快適と長生きの為に尽くしているといえるのだが、天の許しもなく勝手に、軀を切り刻み、自然を作り変えているにすぎないとも言えるのだ。

わが先祖やアジアの多くの民族は、自然とヒトとはその一体の中にあって関係がどうか、付き合い方がどうかの考えは元々無い。大自然そのものが父であり母であり家族であり、動物・植物・昆虫・鳥・森林……、命の糧や安全もその中にあった。わが国でいえば人類が移り住んで数万年、時代は石から土、縄文の世に数十万人が住まわっていても、自然災害での危険はほとんど回避していたであろう証拠はある。それは分母がいかに小さくても、財産や家が粗末なものであろうが、自然の営みの中でヒトが住んでよいところとダメなところを知っていたということだろう。

時代は下って、ヒトが必要とした宗教の中に、仏教の四苦“生、老、病、死”、さらに愛別離、怨憎会、求不得、五陰盛会の四苦を重ねて四苦八苦。でも自然からの辛苦はない。あらゆる苦しみはすべてヒトとのかかわりだけ。

私たち「山の自然学クラブ」は、自然を深く学び、ヒトの生きる糧、そして美しく大切な大自然を壊すことなく後世に遺し繋ぐ使命がある。さらに作り変えてしまった自然を再生・克復するも同義としての使命であろう。森造りや植林作業、保全の仕事は膨大な時間と労働力、ヒトの資産をあてに無限の戦いは続く。ヒトの都合と快適さだけを求めるヒトの責任といえる。

夏 戸隠山に登った時、戸隠地質化石博物館の田辺智隆館長にお話を聞いた。約2000万年前、戸隠周辺はフォッサ・マグナの陥没により海であった。戸隠山は500万年前の海底火山噴火で出来上がり、200万年前から隆起して約2000mの山になった。その生い立ちを、発見された貝類やダイカイギュウ（ジュゴンの先祖）、クジラなど多くの海洋生物の化石から解き明かした。大地は生きている「山は動く、武田信玄は嘘っぱちだ」という比喩と共にその面白い語り口に引き込まれた。溶岩（凝灰角礫岩）で形成された鋸状の険しい戸隠山は、その山容から伝説の舞台から信仰の対象になった一面も持つが、その大自然の多様な歴史に引き込まれた。千曲川の川底が山の稜線になったり、長野善光寺盆地がどう沈んだか、火山の噴火や地震で幾度も隆起、陥没を繰り返



戸隠山は今でも隆起のスピードが速い。
1万年で10m

戸隠岳一番の難所、蟻の塔渡り。西側は150mの絶壁。

した。大地の変化をスローモーションで見たような思いだった。彼は、教育者で地質学者の保科百助（1867～1911）の名言“地質学はすべての学問の土台である”を座右の銘にしていると紹介してくれた。なるほど！と感嘆した……………。

翌日、田辺さんの案内で鬼女紅葉伝説の荒倉山あたりを散策した。その時、林道の展望地で飯縄山より飯綱高原、そして大頭山の丘陵地に広がる裾花集落を垣間見た。彼は「ヒトは住めるところを決めるにはまず湧き水、次に日当たりのよい農耕地です。災害が起きず安定して生きられるところをしっかりと見極めて暮らしてきたのです。自然を学ぶことの大切さがわかるでしょう。」河川の堤防など全くなかった時代には、雨が降れば洪水は当たり前だったろう。ヒトの生活圏？を脅かす被害は今や甚大となる。家、道路、橋、電柱、線路、田畑……電気、水道などインフラ、ヒトが快適に住まうための文明が、ことごとく破壊される。元をただせば人為がそうさせている。誰だって豪雨で土砂崩れが来るとわかっている場所には棲まないだろうが、大自然を知らない。ヒトとの乖離がそうさせる。人智レベルでは大自然に勝つことはできない。ヒトは“水と電気だけあれば”と、住んではいけないところを住めるようにしているだけであると認識すべきである。

※人をヒトと表記した意味は自然界のなかでは動物と同じということ。



8月の活動

8月の定例作業及び都府林作業は、東京都での新型コロナ感染が異常に多く残念ながら休止と判断した。

そういった中でも有志により毎年8月に行う恒例の作業小屋タタミ干しを実施、また石井さんの指導で植樹祭に使用する篠だけのペンキ塗装やベースの草刈りも行われ綺麗になった。

また昨年の台風19号で多くの流木が小下沢を塞いだが機械班が臨時作業で取り組んでくれた。



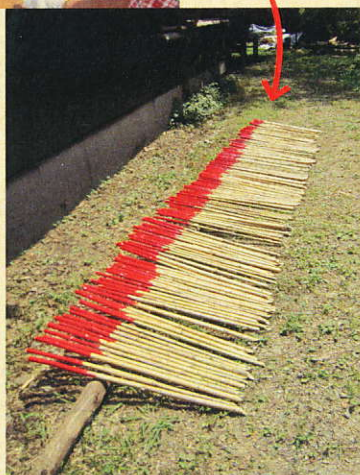
小下沢流木処理前



流木処理後



植樹祭用篠だけ
ペンキ塗り引継ぎ



篠だけ乾燥



タタミ干し (20 畳)

もくじ

わざわいと自然学	02
小下沢 NOTE	04
チェーンソー作業特別教育	07
創立 20 周年記念誌	07
賛助会員ご紹介	08
新入会員紹介	09.10
「TAKAO599 祭」報告	11
74 才記念、北アルプス縦走	11
幹事会報告	12
事務局からのお知らせ	12



ザリクボ登山道整備

9月の活動

9月は管理署のご指導のもと定例作業を3密に注意して実施した。バスは班ごとに分散乗車やベースでの朝礼も2班に分け実施。終了後は各班流れ解散、また会食の禁止など対策を講じた。



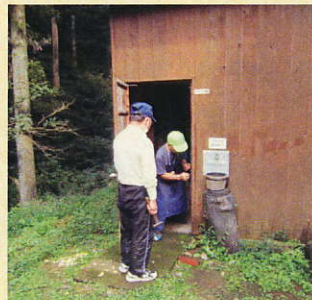
大雨で壊された丸太橋



橋架け替えキャスト



腐食したトイレ戸の補修



出発の前に（B班）



作業道作り今日はここ迄（D班）

お忙しい中
メタウォーターさんに
参加いただきました。



10月の活動

10月の定例作業も台風14号の影響をもろに受け第3週に延期したが、それでも雨天でやむなく中止とした。それでも上柚木公園での草刈りや土留づくり、またチェーンソー研修会や599ミュージアムでのイベント参加。さらには京王電鉄さん100周年記念で植樹された高尾一丁平の草刈りや、フィールド担当と機械班で今後の作業の確認のため山見を実施。などに取り組んだ。研修会の写真は、大塚、山崎両リーダーから提供いただきました。



研修会風景



掛かり木処理



上柚木公園土留づくり



講義・チャップス



599 祭で熱弁をふるう山崎さん



一丁平厳しい作業後のスナップ京王さんと共に

チェーンソー作業従事者特別教育

参加者からの感想



石橋英寿

何でも、やって、見て、触れて、新たな未知の世界に挑戦です。

林業・チェーンソーの作業は奥が深い、私が無知なのが特有な言葉や名称（伐木・伐倒）など初めて聞き知る言葉が多く専門的で戸惑いぎみです。

三日間の研修は内容の濃いカリキュラムなので一度で覚えられるか心配でした、冊子・資料など前もって配布していただけるともっと予習・復習もでき助かります、初日一回目の研修で沢山の質問もできて疑問も解決できた気がします。

それからチェーンソーの実施訓練も何度か繰り返し練習したいです、ガイドバーの跳ね上がりやキックバックの危険度も体験したいです。

また怪我などはどんな時、どんな場所で起きるか、どんな注意が必要か？もろもろ聞きたいですー？

次に希望的観測ですが「ものづくり班と機械班や他の班とのコラボレーション」共に考え、共に協力、共に創造して新しい〜も・の・づ・く・り〜で、いろいろな物を制作して発表してみたいです。 以上 宜しくお願い致します。

青嶋康文

身近な自然を守る。森の保全活動ができないかと考えるようになり、森づくりの会に入会しました。これからお世話になります。

早速チェーンソーの講習会があると聞き、参加しました。2日間の講義と実技、どんなことを学ぶのか、機械の扱いなどしたことのない私ですが、大丈夫か不安もありました。しかし、丁寧に説明をいただき、様々なことを学ぶことができました。木を切ることはばかりに頭がいってしまいがちですが、準備と手入れがいかに大切なのか。身に染みて理解できました。どんな仕事もそうですが、人間にとって道具とは身体の一部と同じように大切なのですね。どこまでチェーンソーを扱えるようになるのかわかりませんが、皆さんの指導を受けながら少しずつ学び続けていきたいと思っています。ご指導よろしく申し上げます。

酒井えりな

講習はひとつひとつの作業について理由を説明いただきながらのもので、分かり易かったです。定例作業の手鋸による伐木は径の細いものなので弦に対する重要性が感じられず、多少追い口受口、伐木方向にずれがあっても結果的に大事に至ったことはありません。

そのため「あー、ずれちゃった！」程度の反省でしたが、悔い改めなければ！

まだ立木を切っていませんが手鋸とチェーンソーの作業スピードの違いにより危険も大きくなることを理解しました。また道具の手入れの重要性も理解しました。今後の実習補講においてさらに実感、体感することで正確な作業ができるよう身につけていきたいと思います。



創立 20 周年記念誌 「20 年のあゆみ」制作スタート

来年創立 20 周年を迎えます。この機会に 20 年の活動を記録し後世に残したいとの思いで「20 年のあゆみ」を制作すべく準備に入りました。代表をはじめ大森さん、小木曾さん、白井さん、仁藤さん等がメンバーで取り組み始めました。内容は、

1. 活動

- ①森林整備（植樹、下草刈り、間伐など）
- ②専門班（調査、研修会、ものづくりなど）
- ③プロジェクト（三宅島、気仙沼ほか）
- ④啓蒙（京王親子森林体験スクール、滋慶学園森林体験ほか）
- ⑤普及宣伝（植樹祭、紅葉観賞会、林野庁研究発表会、受賞など）

2. 組織・体制

- ①参加法人
- ②日本山岳会との連携（森づくり連絡協議会など）

3. 想い出

- ①一般会員（20 名くらい） ②協賛企業より一言

4. 座談会

10 名規模で 20 年を振り返っていただく。

なお、記念誌は来年の 8 月ごろ完成を目途に取り組み、記念パーティは、来年 11 月ごろ計画したいと考えています。皆さんのご協力をお願いいたします。（松川）

賛助会員ご紹介

我々の活動は様々な方々に支えられています。
多くの「賛助会員」の皆さんにも感謝の一言です。

皆さんをご紹介させていただこうと企画し今回は3名の方々に登場していただきました。

子ヤギの挑戦を受け勝負(引き分け再試合)

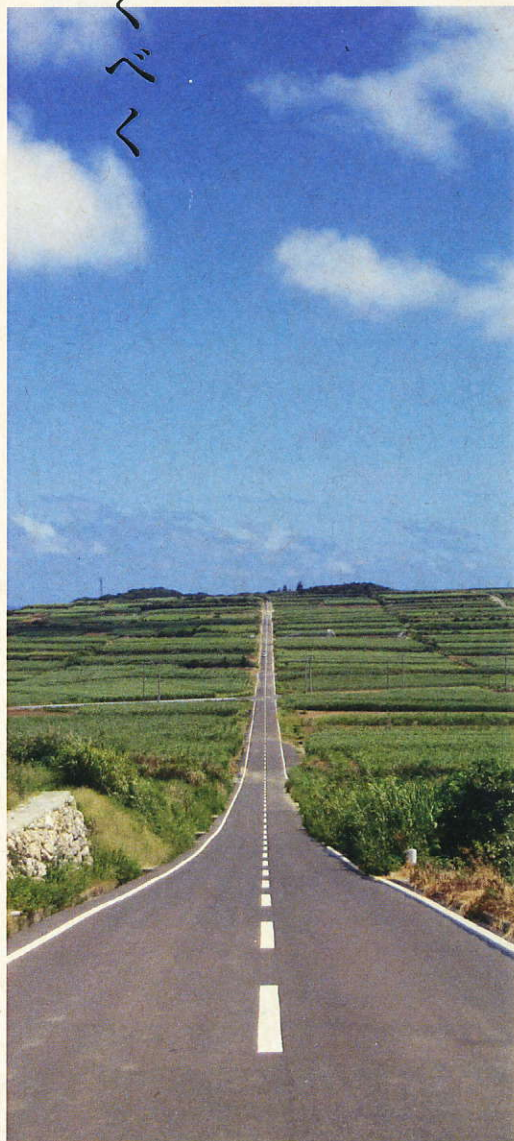


吉田忠弘さん

(鹿児島県喜界島在住)

亡父の遺志を継ぐべく

サトウキビ畑の一本道



はじめに 故河西瑛一郎氏の三回忌に
当たり改めて衷心よりご冥福をお祈り申
し上げます。(合掌)

私は昭和41年高校卒業後小さな島から
船に揺られ蒸気機関車の煙で顔を真っ黒
にしながら上京。コキ使われて半世紀。故河西氏とのご縁で高尾・三宅島・
粟島と短いながら共に汗を流し酒酌み交わした忘れ難き日々。急逝した亡
父が精魂込めて育てていた「花良治(けらじ)みかん」再生増産の遺志を
継ぐべく平成21年62歳で帰郷。

近況報告ですが

1 柑橘栽培 花良治みかん最大の特徴は鮮烈な芳香。加えて抗がん作用等
機能性成分メタキシフラボノイドを多く含有。10年前20本植樹。炎天下
水やり草刈り施肥。残念ながら5本枯死。残りの樹に結実。花良治みかん
の花粉親(父親)である喜界みかんの花粉親は「橘」だと私は考えています。
橘も鮮烈な芳香とメタキシフラボノイドを更に多量に含有。第十一代垂仁
天皇の勅命により田道間守が「常世の國」から持ち帰ってきた「非時香菓」
(ときじくのかぐのこのみ)が橘、と記紀に記載。九州帝国大学田中長三
郎博士によれば大正時代奄美大島大和村に橘が生育。橘の生育適地は「石
灰岩質土壌で海岸近く」。隆起サンゴ礁の喜界島はより適地で古代には群
生の可能性大。鳥羽市迄出かけて入手した実から育てた橘は専門家も驚く
ほど生長が速く3年半で3m以上。うち一本に4個結実。記に「常世の國」
は「遠く離れた海のあなたの不老不死の理想郷」で済州島ではないかの
説もある、と記載。しかし記が成立した8世紀初頭迄には遣唐使が済州島
と朝鮮半島間を通り西岸経由の北路で何度も渡唐し、既にその存在は知ら
れていた筈で「常世の國」の発想は出ないと考えられる。加えて柑橘類は
南方原産。黒潮に乗って済州島に齎されたと考える方が自然。私は「常世
の國は喜界島ではないか」と考えています。

2 埋蔵文化財センターで喜界島の遺跡と歴史を説明(土日休日)

●城久(ぐすく)遺跡が平成29年10月国史跡に指定。9世紀から11世
紀前半は大宰府の出先機関としてヤコウガイ(螺鈿細工材料)、アカギ(親
王位記軸)、ビロウ(上皇、大臣等が乗る檳榔毛車屋根材)等の調達機能。
11世紀後半から12世紀後半は琉球～奄美地域における一大交易圏の中心。
製鉄炉跡も検出。考古学、文献史学の双方から古代末から中世南島の社会
状況が分かる稀有な遺跡。●日本で最多級の縄文時代後期晩期の大集落遺
跡。狩猟採集中心といわれる縄文時代に小さな喜界島での食料調達は学問
的に未解明。私はイモ類主、アワ・熱帯ジャポニカ従の混作縄文農耕の可
能性を考えています。●平成5年県外ダイバー5人が水深15mで海底遺
跡を発見。高さ3m位の四角の壁が碁盤状に続き溝が交差する中央に同じ
高さの円柱。明らかに人工物。その後数回探索が行われたが確認できず。
～歴史とロマンの「常世の國」喜界島～
それでは高尾の皆様ご安全に。

佐久間文夫さん

(三宅島在住)



邂逅（かいこう）の日々

邂逅とは思いがけない出会いの意味です。平成 20 年 11 月快晴の千本山植栽でサポート役としてご一緒、初めて高尾の皆さんと出会って 12 年が経ちました。第一印象はその作業道具でした。2 泊 3 日で当時 40 名前後の方がお見えになっていましたが、鎌一つとっても肉厚の刃の高価な持ち物、二丁差しも同様でした。そして作業内容も堂に入ったもので、山男・山女の集団の様相、これがボランティア？度肝を抜かれた印象でした。

三宅に来る前札幌の森林ボランティアの会に所属していましたが、そこでは精々 2 時間作業、あとは林業をとりまく環境について説明を受けるなど、学習体験のようなものでした。高尾の皆さんとの出会いはまさに邂逅、その日から 12 年のおつきあいが始まりました。

あくる年の 5 月から始まった「コシキの穴」の整備、ここで又高尾の皆さんのとんでもない作業をみせつけられることになります。マダケとアズマネザサでびっしり埋めつくされた、1643 年の大噴火の火口底、その皆伐整備は 22 年秋まで、3 回の活動を必要とする難事業でした。

オオシマザクラ・ガクアジサイ等、島の木がうえられ、火口底に降りる道も 4 カ所整備、遊歩道からは阿古集落を一望できる展望所も出来ると、火山を体感できる自然公園の趣でしょうか、島に 25 カ所あるジオスポットの一つとして、コシキの入り口には立派な看板も設置されました。その後も今日迄春・秋の高尾の皆さんの来島時の整備により維持されていることは、島民として感謝に絶えません。3 年前には皆さんのお仲間にして頂き会員となりました。定例作業や各種行事には参加できませんが、ご来島時には現地会員としてご一緒させて頂いております。

東日本大震災の又、新たな邂逅を生みました。気仙沼大島に支援活動に行くと聞き、自分にも出来ることがあればとご一緒したのが平成 24 年 6 月、春・秋 5 年間の体験は特別な時間となりました。三宅島でお会いした方ばかりでなく、半数の方は初めての方、当時は自分も会員ではなく、三宅同様の被災地に対する復興への思いから参加していたようなもので、そんな自分に高尾の皆さんの気遣いは、心苦しく感じる位有難いものでした。又一步間違えれば大怪我につながる山仕事、作業時の目配り気配りも、日頃高尾のベースで養われてきたことを思わせる連係、動きを感じさせました。加えて和気満堂とでもいうのでしょうか作業後のお酒一つとっても、なにか人生の楽しみ方を知っている、そんな印象を強くしたのが、特別な時間と思えたのかも知れません。

昨年三宅島巨樹の会「やどり木」を設立しました。高尾の皆さんにも応援して頂いておりますが、自分の思いの一つは巨樹を通して三宅島を全国に発信していくことです。そこに新たな邂逅が生まれることこそ、高尾の皆さんとの 12 年の時間から学んだ、残された時間の重さだと思っております。

高尾のベースで、三宅島で又お会いでき増すことを切に念じ、共に健康に留意、今後とも宜しく願いいたします。

サルトルイバラの赤い実 実る三宅島にて

【お詫び】78 号で酒井理恵（A 班）と上尾奈津子（B 班）の紹介をさせていただきましたが写真が反対でした。お詫びします。

新会員紹介

近藤雅幸です

実は「新古品」です

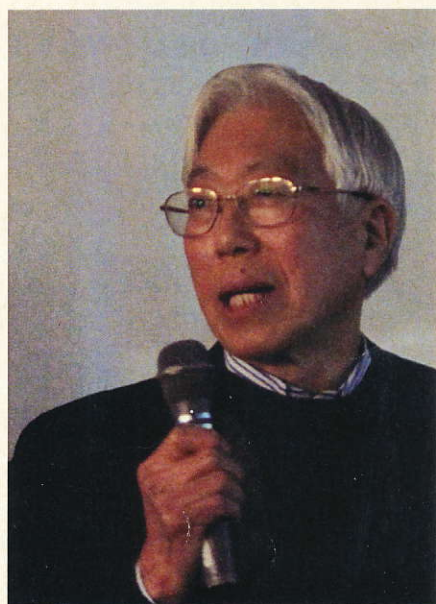
B 班所属の新人、近藤雅幸です。といっても高尾の森づくりに参加するようになってからすでに 1 年くらいたっている新古品です。大学で森林生態学（＝造林学）を専攻していたので、森づくりは初めてというわけではありませんが、30 年以上そこから離れていたため、実技は初心者と同じになっていると思います。ただその間も、

趣味として山を歩きながらこの森はどのような遷移を経て極相はどうなるのだろうか、このあたりではこの樹種床の樹種のすみわけがどうなっているのだろうか、興味を持ちながら観察していたので、変に頭でっかちになっているかもしれません。土日にも仕事が入ることが多くなかなか作業に参加できませんが、お手柔らかにお願いします。

森と人と

権藤司さん

(長野県安曇野市在住)



母なる太陽、母なる大地。その恵みに日々感謝し、風や草木、自然の声と言葉を友として、信州の山地の小さな雑木林で暮らしている。(熊の来訪は年数回だが、頻繁にやってくる猿の大群による獣害は大きく、行政と地域住民の解決すべき課題となっている。)

森は同じ恵みに生き、きれいな水と空気、豊かな土壌と多くの生命を育んでくれる。特に自然の豊かさに恵まれた国土に生きる私達、日本人が森を大切にすることは、今、この星に生きる総ての人にとって好ましいことと思う。僅か3%程の原生林、国立公園などの自然保護区域の森、人の手が加わって保たれる森、木の文化、いずれも大切にしたい。

故 C. W. ニコルさんとは、一度お会いしただけだが、明るい森づくりの夢を見つづけ、「アフアの森」を作った。「高尾の森づくりの会」初代代表の故・河西瑛一郎さんも同じような夢を見つづけ森づくりを愉しんでいたと思う。私の入会は河西さんと山川陽一さん、お二人との出会いによる。河西さんとは、「山の自然学クラブ」の初期の頃、大森弘一郎さん、大蔵喜福さん等と運営についての会合を重ねた折に同席し、理解し合える共通の経験の有していたこともあってお互いに親近感があった。山川さんとは、日本山岳会の上高地集会に参加すべく上高地線に乗車した時、隣席で同じ資料を見ている人がいたので顔を見たら山川さんだった。以来、環境問題に取り組み、自然再生エネルギー普及に尽力されている今も親しくして頂いている。そして、良識の人、吉川正幸さんが河西さんの後を継いで会の代表として活躍されていることに、森を通じて何か不思議な繋がりと喜びと希望を感じている。

或る日、河西さんと山川さんから森づくりの参考にしたいので美しい森を見学したいとお話があり、安曇野の北部に広大な森を所有し、長年、森林政策や林業環境等、時代の変化の中でも強い信念をもって個人で林業経営をしている人の美しい森を案内した。その夕べ、ご一行の宿泊先での夕食会に招かれて嬉しいひとときを過ごした。その折に、河西さんの気配りとお人柄とリーダーシップを垣間見たように思う。その森のことは、「高尾の森通信 13 号 (2014 年 2 月発行)」に掲載の拙稿「美しい森」の中に概要を記してある。

私は、十数年前に一度だけ高尾の森の急斜面での植樹祭に参加したが、年齢と姓の頭文字を考えて G 3 (じーさん) 区画で作業をした。その時植えた苗木が無事育っていてくれたのなら嬉しく思う。

「高尾の森づくりの会」の皆様と関係者の方々が、山と風と太陽と泉と森とともに、いつまでも若き青春を愉しまれることを、また、高尾の森が、未来に向けて、環境保全の森、人々が自然に親しみ活動と理系・文系の学びと遊びを楽しむ森、木の文化を育む森、そして、美しい風景林で在り続けることを祈っています。

新会員紹介

青嶋康文です



小下沢に魅了されて

C 班に配属になりました青嶋です。退職まで残り 1 年半になりましたが都立の国語の教員をしています。小下沢には十数年前に「オオルリを探す会」で訪れたのが初めて、それ以来この林道に魅了され、毎年カメラを持って散策する日々です。とにかく自然が好きで、生徒と一緒に色々な活動をしています。高尾ビジターセンターを運営する自然教育研究センターの方とも親しくし、勉強させていただいています。微力ではありますが、森の保全活動をこれからも続けたいと思っていますのでよろしくお願いします。



ヤブコウジ



古代から栽培されていた。葉と赤い実が控えめで心を労わってくれる。横川信由

山の記念日 「TAKAO 599 祭」 報告

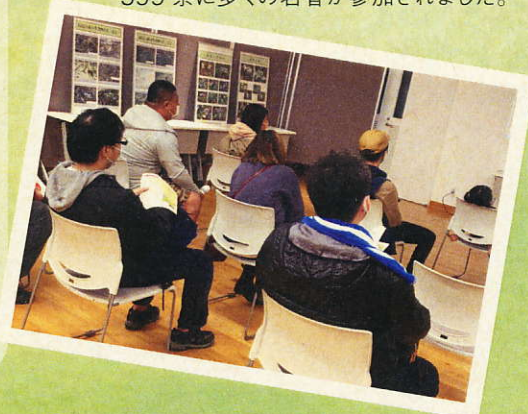
あいにくの冷たい雨模様の10月17日(土)山の日記念日「TAKAO 599 祭」が599ミュージアムにて行われた、コロナ禍の中で多くの来場者が触れる(例えば積木やパズルなど)物は避けてほしいとの依頼もあり、山崎(勇)さんが取り組んでいる「動物カメラ映像」を映写、また「会への御誘い」パンフや「会報誌」の配布、また会の活動パネル展示でPRを行った。天候に恵まれず来場者は65人と少なかったが、ほとんどの方が若い方であった。

一人でも関心を持っていただけたらと思う。山崎さんも一人でしゃべり通しさぞかしお疲れのことと意図したが意外と楽しめたようだ。館長さんより来春も是非お願いしたいとの依頼があり3月27日(土)から4月4日(日)の9日間開催が確定した。

応援いただいた会員の皆さんありがとうございました。助かりました。(松川)



599 祭に多くの若者が参加されました。



74才記念、北アルプス縦走

薬師岳～スゴ乗越～五色ヶ原

本山幸次



左が本山さん

8月「人生、埃を被っちゃいけないよ」ラジオの声にけしかけられて、新型コロナ禍悩ましい時期ながら、マスク・体温計・消毒液・シュラフ持参、SP付きで行くことにした。7:15 発、有峰口駅(富山地方鉄道)からのバスで1時間、折立登山口に着く。

「今年は頻繁にクマが出没しているので、駐車場付近に止まらず早めに出発するように」と運転手さんの説明もあり、早々に太郎平小屋を目指して出発した。

シュラフがSP(警護+サポーター=妻)の分と2つあるので自分のザックに詰め込むと外見は「しっかり男らしい荷物」となった。食材・飲料・果物類は重いのでSPに任せた。小屋まで5時間半、私の足ではまずまずの出来、明日からがいよいよ本番だ。

翌朝は6時前に出発、薬師岳は3回目だがその先は初めてだ。地図の所々に「痩せ尾根・急斜面・滑落注意」と

あるが行ってみてダメなら引き返そう。

2泊目のスゴ乗越小屋では、逆方向者と交流「すごい上り下りの連続でやっと辿り着きました」「もう逃げ道なし、覚悟して行くしかないですね」お互いに励まし合う。3日目も晴天、剣岳・立山・鹿島槍・針の木・赤牛・水晶・槍ヶ岳・笠ヶ岳・黒部五郎岳……これ程一流?の山々をよくぞここに集めたものだ。

更に、越中沢岳・鳶山からの五色ヶ原一帯を望み「来てよかった」と唸る。

最終日、五色ヶ原山荘5:30 出発。

ザラ峠から獅子岳への上り最緊張箇所。慎重に1歩1歩、無事通過できてほっと!

ルンルン気分が進んで行くと、雪渓で先行2人連れから「抹茶金時練乳氷パーティ」に誘われた。立山連峰を仰ぎ見ながらのかき氷はお蔭で嬉しさもてんこ盛りだった。いよいよ最終章、龍王岳分岐までの上り詰めで、下って来る特大ザックの清々しい若者が近づき「あれ、本山さんですね」と。1泊目の太郎平小屋で受付をやってくれた若旦那の河野一樹さんだった。同じ経営傘下のスゴ乗越小屋に向かうようだ。

名前を憶えてくれていた嬉しさも重なり、「来年も太郎平小屋に行くぞ」の目標が出来た。

コロナ禍きめ細かい対応いただいた夫々の山荘の皆さん、本当にありがとうございました。

主な作業・行事記録

8/8	定例作業（コロナで中止）	
8/8	サタディナイトミュージアム （高尾599ミュージアム）	
8/23	都有林プロジェクト（コロナで中止）	
9/12	定例作業（雨のため延期）	
9/19	定例作業	53名
9/26～27	チェーンソー作業従事者特別教育	22名
9/27	都有林プロジェクト	9名
10/2	上柚木公園作業	7名
10/10	定例作業（台風14号のため中止）	
10/17	定例作業（雨天中止）	
10/16～18	三宅島プロジェクト（コロナで中止）	
10/17	山の日イベント「599祭」	
10/20	一丁平草刈り作業	6名
10/24	チェーンソー作業実践講習/補講	18名
10/25	都有林プロジェクト	8名

今後のスケジュール（予定）

11/14	定例作業
11/22	都有林プロジェクト
11/28	チェーンソー作業実践講習
12/12	定例作業
12/27	都有林プロジェクト

2021

1/9	定例作業（安全祈願）
1/24	都有林プロジェクト

会員動向

入会：ようこそ

吉田真樹さん 青嶋康文さん

退会：ありがとうございました

長谷川隆司さん 長谷川裕子さん

山口富子さん 牛山珠美子さん

徳永拓之さん

幹事会報告

【9月：立川女性総合センター】

1. 9月からの定例作業及び行事について
2. 定例作業内容について
3. 紅葉観賞会について
4. 新五か年計画について
5. 創立20周年記念行事について
6. 木下沢林道補修工事について
7. 美林見学会、三宅島プロジェクト中止について

【10月：メールにて開催】

1. 10月の定例作業について
2. 東京神奈川森林管理署より「東京都から『野生イノシシ CSF ワクチン散布作業日程について』連絡がありました。」との報告。
3. 美林見学中止について
4. 忘年会について
5. 定例作業が天候にて延期の場合は第3週の土曜日とし、第3土曜日の天候が悪く中止の場合はその月の作業は行わない。（代表 副代表 事務局長）

専門班活動日

ものづくり班・小屋管理班
（佐々木リーダー）哺乳動物生態調査班
（山崎勇リーダー）植物生態調査班
（千谷リーダー）都有林プロジェクト
（日比野リーダー）毎週
木曜日第三
土曜日毎週
木曜日第一
水曜日第四
日曜日

編集後記



●今回は特定非営利活動法人山の自然学クラブ大蔵理事長が登場。今後も外部の方々に登場いただき様々など意見をお伺いしたいと考えています。

●都合で作業に参加できないが我々の志に共鳴し資金面での支援をいただいている賛助会員3人の方に登場していただきました。

●プライベートな記事も掲載してみました。登山「74歳の挑戦！」

「地図の所々に痩せ尾根・急斜面・滑落注意とあるが行ってみてダメなら引き返そう。もう逃げ道なし、覚悟して行くしかないですね。お互いに励まし合う。」高所恐怖症の私には足がすくむ内容でした。

●9月下旬近くの小学校で運動会が開催されていた。学年ごとに校庭へ入り限られた演技が終わると次の学年へ生徒父兄とも入れ替えとのこと。もちろん校庭に入る際は先生が検温、家族は二人まで。先生もコロナ禍での新しいやり方に四苦八苦大変だ。

